

**1 学校教育目標**  
**「確かな学力・豊かな心・健やかな体の育成」**

**2 学校経営ビジョン**

- 目指す学校像** ・美しい学校 ・明るく元気な学校 ・信頼される学校
- 目指す生徒像** ・自ら学び考えることができる生徒 ・礼儀正しく思いやりのある生徒 ・心身ともにたくましい生徒
- 目指す教師像** ・協働する教師 ・教育愛に燃える教師 ・人間力を高める教師

- (1)生徒が自ら考え、自ら律し、自ら鍛えることを通して、明るく活気に満ちた学校を創造する。【生徒力の向上】
- (2)教職員が互いに切磋琢磨しながら力量を高め合い、生徒一人ひとりの個性や能力を伸長することができる学校づくりを目指す。【教師力の向上】
- (3)学校、家庭、地域が相互に理解連携しながら、ともに生徒の健やかな育成を支援する信頼される学校づくりを推進する。【学校力の向上】

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1)「確かな学力」の育成 (2)「豊かな心」の育成 (3)「健やかな体」の育成 (4)生徒の自主性、自律性の育成 (5)生徒理解に立った生徒指導の実践	校内研究体制が確立し、授業研究部や学習定着部との連携で、学習意欲の喚起や学習内容の定着について研究を深めることができた。特に家庭学習の充実に向けて、「学習の手引き」を活用しながら、保護者の協力を得ながら取り組んだ。学力向上に関しては、学年が上がるにつれて成果があがっており、校内研究のさらなる深まりや地域の教育力の活用により、確かな学力へと繋げていきたい。 不登校対策としては、週1回の教育相談部会を開催し、生徒に関する情報交換や、家庭や関係機関との連携などに努めたが、結果的に不登校生徒数を減らすことができなかった。今年度は、早期発見・早期対応はもちろん、予防にも力を入れながら、スクールカウンセラーへの相談など、気軽に学校へ足を運んでもらえるよう、環境整備にも力を入れたい。

**5 総括表**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	○学校経営方針(校長・教頭)	学校教育目標・本年度重点目標の周知	・学校教育目標を受けて、各教師が自己の目標を設定し、日常の教育活動を実践する。 ・生徒、保護者の周知率を90%以上にする。	・学校教育目標を組織として達成できるよう、自己評価システム自己申告書に明確に位置づける。 ・学校HP、学校便りを通じて保護者に周知する。学校HPの内容を充実させる。		
	○教職員の資質向上(教頭)	教職員の資質向上および服務規律意識の向上	・職員が広い視野を持ち、社会人としての自覚を持つよう、意識の高揚を図る。 ・評価育成システムの自己の取組目標を達成させる。	・服務等に対する研修や事例研究の機会を積極的に設け、服務規律保持の自覚が高まるようにする。 ・職員が校内研修や校外研修に意欲的に取組み、各自の指導力向上を図る。		
	○危機管理体制の整備(教頭)	生徒が安全に、安心して学校生活を送るための環境整備	・携帯メールの加入率を90%以上にする。 ・職員・生徒の危機対応能力を向上させる。	・携帯メール加入の促進に努める。 ・関係機関との連携を図るとともに各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・情報を発信し、生徒の危機管理意識を高める。		
教育活動	●学力向上(宮崎・高田・武藤・井手・大串)	学習規律及び学習習慣の確立	・学習用具忘れ0人や学習課題の提出を100%を目指す。 ・家庭学習時間1時間以上の生徒を1年70%、2年80%、3年90%を目指す。 ・学習に意欲的に取り組む生徒を全体の85%以上を目指す。	・学習に関わる実態調査を継続して行い、教職員の共通理解と学習指導の工夫改善を図る。 ・基礎基本の定着を目指し、学習課題や自学ノート等の工夫改善を図る。 ・ICT活用、特に電子黒板を用いて学習意欲の向上を目指した指導法の工夫改善を図る。		

	●心の教育 (古賀嘉・北村・片淵)	道徳教育の充実	・各学級1回以上、授業を保護者に公開する。 ・生徒の心に響くような授業を月1回以上行い、豊かな感性の育成を図る。	・フリー参観デーでふれあい道徳を実践し、保護者とともに生き方を考えさせる。 ・副読本等の読み物教材だけではなく、詩や絵本、新聞記事等を活用し、心に訴える道徳教育を実践する。		
教育活動	●心の教育 (大串・井手・山口)	人権同和教育の充実	・年1回は人権・同和教育の研修会に全職員が参加し、理解を深める。 ・人権週間を設定し、生徒に生命の尊さ・人権尊重の精神を培う。	・人権・同和教育に関する研修会へ、職員を計画的に参加させる。 ・人権週間において、生徒会主体の集会を実施し、各学年でも計画的に授業に取り組む。		
	○生徒指導	生徒指導の充実 (江口・古賀正・北村・高田)	問題行動の発生件数が昨年度実績より30%以上減少することをめざす。いじめ解消率100%をめざす。	校内生徒指導体制を整え、関係生徒及び保護者に計画的・組織的に関わっていく。計画的な調査を行い、いじめ等への早期対応を図る。		
		教育相談の充実 (津上・香月・古賀嘉・武富)	・週1回の教育相談部会を開催し、日々変化する生徒の情報交換及び状況把握に努める。 ・不登校および不登校傾向生徒の発生予防に力を入れる。	スクールカウンセラー、心の教室相談員、関係機関との連携を深め、組織的に対応に心がける。生徒・保護者対象の講話や相談体制の充実など、気軽に学校へ足を運べるよう、環境整備に努める。		
	○部活動 (北村・宮崎)	部活動の活性化	・月1回のキャプテン会議を開催する。 ・あいさつ、返事の徹底や時間を大切にさせる。	部活動を通して強い心を育てる。 キャプテン会議を開き、共通理解を図り、たがいに意識を高め合う。		
	●健康・体作り (武富・大串・香月・牟田)	健康な心とからだづくり	・食育に計画的に取り組み、子どもたちの主体的な活動を通して、食生活を振り返り改善することにより、健康な心とからだづくりを目指す。	・生徒会保健部、厚生部を中心に、昨年の活動をもとに、さらに発展的にとり組み、朝食摂取率100%、また食事内容の充実を図る。		
	○特別支援教育 (山口・牟田)	特別支援教育体制の確立	全校的な支援体制の充実に努め、支援を必要とする生徒の早期発見に努め、保護者・関係機関の連携を図る。	必要に応じて関係機関と連携し支援の充実を図るとともに、職員研修も深め、学校全体で個に応じた支援体制の強化を図る。		
	○生徒会活動の充実 (片淵・差形・川久保)	全校生徒が主役の生徒会	・生徒会役員が、学校行事をはじめ日々の学校生活においてもリーダーシップをとり、全校生徒の活動を活発にする。	評議委員会の活性化、学級討議の有効活用、専門部活動の活性化を図る。		
	○家庭・地域との連携 (教頭・宮崎)	家庭や地域との連携の強化	・家庭教育、地域教育による学校教育への支援の拡大を図る。	・PTAと連携して地区懇談会の内容を工夫し、連携強化に努める。参加者を前年度より増加させる。 ・体育大会、卒業式等の学校行事を保護者や地域の協力を得て充実させる。		
	○読書指導、図書館教育 (古賀嘉・安田)	図書室の活性化と読書量の増加	・一人年間20冊以上、読書をする。 ・情報教育の一翼を担う学習情報センターとしての機能の充実を図る。	・読書量が増えるような図書室の環境整備を工夫する。 ・読み聞かせを各学級で年2回以上計画する。 ・インターネットや新聞記事を活用し、積極的に情報提供を行う。		
	●ICT利活用教育の推進 (高田・江口・田中)	ICT利活用能力の向上	・教職員全員が電子黒板を使用できるようになる。 ・ICTの効果的な活用法を各教科で検討し、積極的に取り入れていく。	・電子黒板の使用方法を理解できるように研修会を行う。 ・授業の中での効果的なICT活用法を検討し、積極的に授業実践に取り組む。		

## 6 総合評価

## 7 次年度への課題・改善策

